

【大玉村教育フォーラム】

1月24日（火）に「第8回大玉村教育フォーラム」を改善センターにて開催しました。

第1部では、まず「おおたま・オータム・フェスタ」のねらいや成果と課題について、プロジェクトを使って写真を映しながら、CS委員の代表2名が楽しい対話形式で説明しました。続いて、子ども代表3名、ボランティア代表3名、教員代表2名が、それぞれ、「おおたま・オータム・フェスタ」を経験して感じたことなどを発表しました。

第2部では、心豊かな子どもたちをはぐくむため、家庭・学校・地域がそのような役割を果たしていけばいいのか、また、家庭、学校、地域が一体となって進める活動にはどのようなものがあるかについて小グループに分かれて自由に意見交換しました。それぞれ立場の違う方々が話し合うことで様々な視点での意見交換ができました。



「おおたま・オータム・フェスタ」での感想を発表してくださった方々、大変お世話になりました。



CS委員2名が「おおたま・オータム・フェスタ」についての概要を発表しました。



第2部のフリートークでは、小グループに分かれて活発な話し合いが行われました。

第2部のフリートークでのご意見から

家庭の役割

- ・子どもに寄り添い子どもの成長を支える。
- ・子どもにとって物理的にも心理的にも安心できる場所であり基地である。社会の最小単位なの

で社会のルールの基準、しつけをするところである。家庭で安心を得れば、子どもは外へ元気に出ていく。

- ・お手伝い。自己有用感の育成。

学校の役割

- ・集団生活を通じた人間形成。
- ・さまざまな経験をさせる。
- ・いろんな学年の子が、みんなで協力し合い、助け合う。
- ・学校は実社会と家庭の中間にある社会。社会のルールを学び、基礎学力をつける。

地域の役割

- ・地域の住民も大玉村のよさを発見し伝えていくこと。
- ・安全を守る。
- ・近所の人、身近な人との関わり、あいさつを交わす。
- ・保護者、地域の方の学習参加。学校に任せるのではなく同じ目線で。

これからの活動

- ・収穫祭、地区ごとの運動会、行政区単位の交流活動
- ・だれでも参加でき、長く続き、伝統になるような行事（箱根駅伝のように）。
- ・日本で最も美しい村づくりのためのクリーン活動。学校から、家庭・地域へ。
- ・学校行事に地域のみならず（お年寄りも含めて）が気軽に参加できるような仕組みづくり。

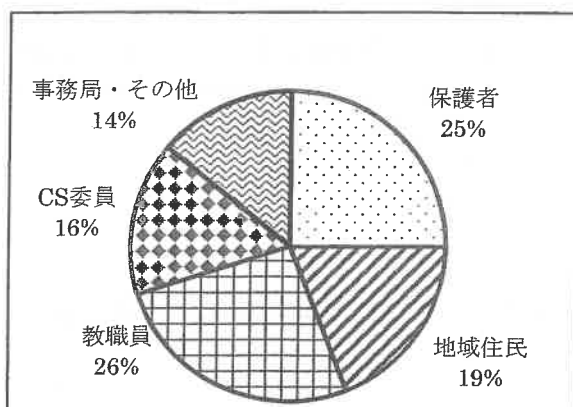
これからも継続して守っていきべきこと

- ・子どもの見守り、声かけ、あいさつ運動。
- ・村民運動会、スポーツ少年団活動、生涯学習課行事（さまざまな体験活動）
- ・学校行事の一般公開、学校支援ボランティア。
- ・地区内での子ども会活動、世代間交流、伝統行事への参加。

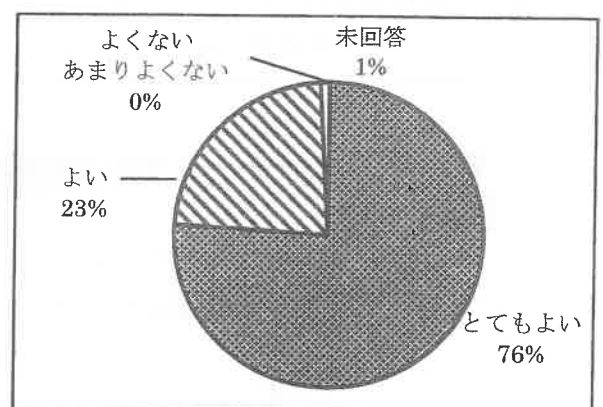
アンケートの結果から

今回の教育フォーラムは約 130 名の方に参加をいただきました。また、大玉村PTA連絡協議会にご協力いただいたため、保護者の参加割合が高く、教育・子育てについて、より当事者意識を持ちながら話し合いを深めることができましたようです。フォーラム終了時に実施したアンケートの結果は以下のとおりです。ほとんどの方が「よい・とてもよい」という感想を持っていただいたことが分かり、今後もコミュニティ・スクールを推進していくうえで大きな力となりました。いただいたたくさんのご意見の中から抜粋してご紹介いたします。

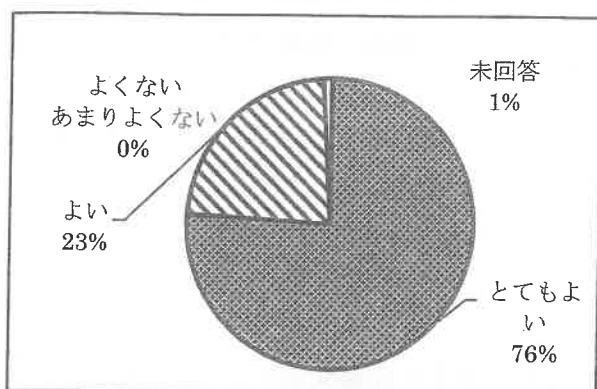
フォーラム参加者内訳



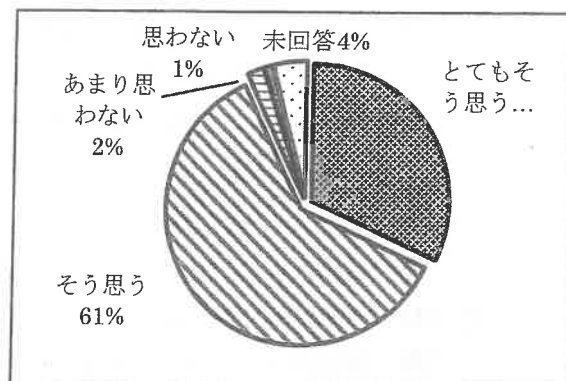
第1部の発表はいかがでしたか？



第2部のフリートークはいかがでしたか？



今日の話し合いから、自分でも何か始めてみたいと思いませんか？



第1部の発表について

- ・小、中学生の参加した立場からのお話がよかった。どんな事を感じたのか、小さな心の成長を感じられました。(保護者)
- ・参加したみなさんがとても楽しく、大切な体験ができたことが伝わった。(教職員)
- ・それぞれの体験がよくわかる発表だった。課題についても触れられたことは意味があったと思う。(教職員)

第2部のフリートークについて

- ・大玉村の教育に関心を持っている人が多いと感心しました。素晴らしいです。(地域住民)
- ・熱い意見交換ができ、時間が足りないぐらい。(地域住民)
- ・いろいろな立場の方の考えを聞けるよい機会でした。(保護者)
- ・子どもたちの幸せを各世代の人が考える。とても勉強になります。(保護者)
- ・保護者さんや子育てを終えた方など、いろいろな視野からのお話、とても興味深かったです。「さすがおおたま！」と思いました。(教職員)

その他感想など

- ・子どもを育てることは、年老いた自分が育っていくのではないかと思いました。(地域住民)
- ・子どもたちのために、みなさんが色々な思いを持っていることがわかりました。(保護者)
- ・素晴らしい方々とお話をする事ができ、とても勉強になりました。自分たちの子どもは恵まれているなど感じました。感謝の気持ちを忘れずに今後も協力していきたいです。(保護者)
- ・家庭、学校、地域に育てられたと思ってもらえる子どもを育てていきたいと思いました。(保護者)
- ・今回の素晴らしい話し合いが、話し合いだけに終わらないように、人まかせにならないように、自分もその中の一人だということを忘れずに一日一日を、子ども一人一人を、大玉村を大切にしていきたいです。心の淋しい人が一人もいない大玉村をつくっていききたいですね。(保護者)
- ・教育に熱心な親の姿を見たり、本気で意見が言え、発表する姿を見せていただくのは気持ちがいいものです。仕事がんばろうと思います。(教職員)
- ・地域の方の思いを知るよい機会でした。参加してよかったです。(教職員)
- ・いろいろな行事に参加したい気持ちが高まった。(CS委員)

大玉村教育フォーラムは来年度も開催する予定です。まだ参加したことのない方、子育ては一段落したという方、ぜひ一度足を運んで、子育てのヒントや自分の生きがいを見つけてみませんか？

【コミュニティ・スクール委員について】

大玉村コミュニティ・スクール委員会は、地域住民、保護者、教職員が協働で、子どもたちのために何ができるのか考える委員会です。年間を通して会議を重ね、熟議の中から生まれた提案を生かせるよう工夫しながら取り組んできました。

平成 27, 28 年度は 25 名の委員で運営してきました。これまでご尽力くださった委員の方々をご紹介します。2 年間ご協力ありがとうございました。

(敬称は略させていただきます。)

会 長 境野健児

副会長 後藤みづほ 藤田安宏 伊藤和弥

学校園 渡辺康弘 渡辺光太郎 佐藤一男 後藤弥和子 佐藤文江

委 員 (順不同)

武田夏代 遠藤雷太

佐々木義信 鈴木真一

武田智道 矢吹吉信

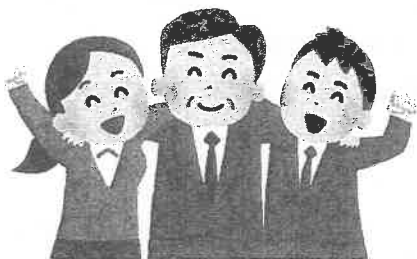
遠藤八重子 田辺将裕

國分初男 遠藤守雄

松井博次 星野裕二

高橋綾香 斎藤信一

武田伸一 菊地暢一



今年度はコミュニティ・スクール委員会も新しい取り組みに一步踏み出した年となりました。まず、大きな出来事としては、「おおたま・オータム・フェスタ」の開催に参画したことです。学校や幼稚園の先生方と地域の方々が心を一つにして取り組んだ行事となり、大玉の底力を実感しました。

もう一つは学校関係者評価の機能をコミュニティ・スクール委員会の中に組み入れたことです。学校の取り組みをさらに詳しく知ることで、コミュニティ・スクール委員会としての取り組みにも大きな手掛かりとなっていくと思います。

コミュニティ・スクール委員のみな様はじめ、学校や幼稚園の先生方、地域の方々、お忙しい中たくさんのご支援、ご協力をありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

コミュニティ・スクール ディレクター 伊藤由美子

H29/3/7 発行 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会
(事務局：大玉村教育委員会内 連絡先：48-3138)

